

令和6年度第1回伊勢原市地域福祉計画推進委員会 会議録

〔事務局〕 保健福祉部福祉総務課

〔開催日時〕 令和7年1月22日（水曜日）午前9時30分～午前11時00分

〔開催場所〕 伊勢原市役所 議会第2委員会室

〔出席者〕

（委員） 御領委員、金子委員、稲毛委員、長谷川委員、森委員、磯部委員、
小林委員、細谷委員、横山委員

（事務局） 保健福祉部長

福祉総務課：小形課長、加納主幹、鈴木係長

〔公開可否〕 公開

〔傍聴者数〕 0人

《審議の経過》

1 協議事項

（1）会長・副会長の選出

御領委員が会長に、小林委員が副会長に選出された。

（2）第5期伊勢原市地域福祉計画関連施策の取組状況【資料1】

第5期伊勢原市地域福祉計画関連施策の取組状況について協議した。

2 報告事項

（1）令和5年度決算について【資料2】

令和5年度決算の状況について報告した。

※ 委員からの主な意見・質疑応答は別紙のとおり

1 協議事項

(2) 第5期伊勢原市地域福祉計画関連施策の取組状況

【意見】

評価と今後の方向性について、例えばC評価だったら今後の改善点を詳細に記載するようにすると、わかりやすくなると思う。
市の人口、高齢化率等の基本的なデータも資料として提供していただけるとよい。 ⇒（事務局回答）保健福祉の概要というものも毎月まとめている。次年度以降、どのようなデータを提供すればいいか精査して対応したい。
グラフ化できるところは、グラフで表現していただけるとわかりやすい。
地域集会所の移管については、しっかりメンテナンスして必要な補修をした上で、各地区に移管していただきたい。
子どもの貧困率について、直近の状況はどうなっているかがわかるようなデータがあれば、提供していただけるとわかりやすい。
点検評価の結果を施策に反映するためには、もっと早い時期に実施する必要があると思う。
不登校は深刻な社会問題になっているので、そこに対応した施策が必要だと思う。
同じ不登校でも、家庭に問題があったり、自ら選んでいたりで、原因は様々である。ケースに応じて適切な相談先に振り分けができると良い。
地域の中には災害時要援護者登録制度の要件に当てはまらなくても、支援が必要な人はたくさんいる。自分たちで出来ることは自分たちでやってもらいながら、地域の皆さんにも協力を求めていくような仕組みづくり、避難計画を立てていくことが必要である。また、避難計画を立てたら実際に訓練をしていくことが必要である。
子どもの悩みは子どもが一番よくわかっている。子どもの考えを聞いていくのは、とても大事なことである。
犯罪被害者支援制度については支援の実績等も含めて、より積極的に広報してほしい。
老人会は近年、会員がほとんど増えない状況である。伊勢原市だけでなく、全国的にも同様の傾向にある。老人会のような活動に積極的に携わることは、認知症になる時期が遅れたり、健康寿命の延伸に役立ったりするというデータもある。老人会の周知に協力をお願いしたい。

【質疑応答】

質問	回答
先日、ひとり親福祉協会が食料配分会を実施しており、参加者は喜んでいました。市では何か支援をしているか。	市で事務局をしている民生委員児童委員協議会に対して協力依頼があり、民生委員児童委員に当日の手伝い等をしていただいている状況である。
災害時要援護者について、発災時にスムーズに避難ができるかどうかは重要になってくると思うが、対策の状況はどうか。	個別避難計画の作成が努力義務になっており、災害時要援護者登録制度の実効性の確保という観点から、作成を進めているところである。
災害時に相互に応援するような協定を結んでいるのか。	事業者や、他の自治体と災害時協定を結んでいる。

2 報告事項

(1) 令和5年度決算について

特に意見・質疑応答なし